

第2回 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度検討会議

議事要旨

1. 日 時 2019年12月3日(火) 10:00～12:00

2. 場 所 中央合同庁舎8号館 416会議室

3. 出席者※敬称略

座長	永田 恭介	筑波大学長、一般社団法人国立大学協会長
副座長	安宅 和人	ヤフー株式会社CSO、慶應義塾大学環境情報学部教授
	安西 祐一郎	独立行政法人日本学術振興会顧問、AI戦略実行会議座長
	五十嵐 悠紀	明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科専任准教授
	漆 紫穂子	品川女子学院理事長
	岡本 和夫	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構顧問
	北野 宏明	一般社団法人日本経済団体連合会イノベーション委員会AI活用戦略TF主査、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所代表取締役社長、AI戦略実行会議構成員
	神成 淳司	慶應義塾大学環境情報学部教授、AI戦略実行会議構成員
	杉山 将	理化学研究所 革新知能統合研究センター長、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
	竹村 彰通	滋賀大学データサイエンス学部長
	田中 邦裕	さくらインターネット株式会社
	椿 広計	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所長
	長谷山 美紀	北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター長
	村田 治	関西学院大学長
	山中 竹春	横浜市立大学医学部臨床統計学主任教授・データサイエンス推進センター長
	ルゾンカ 典子	ソニー銀行株式会社執行役員

オブザーバー

4. 議題

- (1) 第1回会合の主なご意見等について
- (2) 産業界で求められる人材および大学における既存プログラム等について
- (3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度について
- (4) 意見交換
- (5) 今後の予定

5. 資料

- 資料 1 北野構成員資料
- 資料 2 ルゾンカ構成員資料
- 資料 3 村田構成員資料
- 資料 4 山中構成員資料
- 参考資料 1 第 1 回 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度検討会議議事要旨（案）
- 参考資料 2 新学習指導要領における高等学校数学等について
- 参考資料 3 アメリカにおける「見習い制度」及び各国の AI 等戦略における予算規模について
- 参考資料 4 教育プログラム認定制度事例

6. 議事要旨

- (1) 第1回会合の主なご意見等について

冒頭、永田座長の挨拶の後、事務局より第 1 回会合でのご意見等についてまとめ、指摘事項の 1 つである新学習指導要領における高等学校数学等について、文部科学省より参考資料 2 に基づき説明があった。

- (2) 産業界で求められる人材および大学における既存プログラム等について

北野構成員、ルゾンカ構成員、村田構成員、山中構成員より、資料 1 ～ 4 に基づき、世界の人材育成の動向や産業界で求められる人材像、数理・データサイエンス・AI 教育

の学修目標およびそのためのプログラムの在り方等について説明があった。

(3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度について

事務局より、第1回会合のご意見等をふまえた数理・データサイエンス・AIの優れた教育プログラムについての基本的考え方のたたき台が提示された。

(4) 意見交換

リテラシーレベルの教育プログラムのあり方や備えるべき要素、認定制度設計について、構成員による議論が行われた。

(以下は、その中での意見の例)

- 学ぶ意義や動機付け、ELSIの考え方が入っているべきではないか。今後の社会実装において社会の理解を得るためにも、このようなリテラシーの浸透は重要ではないか。
- リテラシーレベルの教育を広く普及し裾野を広げることは、トップレベルの育成にもつながるのではないか。
- リテラシーレベルとトップレベルの間に、数理・データサイエンス・AI自体を研究対象とはしないが、これらを自らの専門分野に活用する人材が想定され、この層への教育の入り口としても、このリテラシー教育を充実させることは極めて有効ではないか。

(5) 今後の予定

事務局より今後の予定について説明があった。

以上